

令和4年11月 市長定例記者会見

令和4年11月1日(火)

午後1時30分 開始

【秘書広報課長補佐】 ただ今より令和4年11月市長定例記者会見を始めさせていただきます。

会見の進行につきましては、最初に市長の挨拶、その後、事業発表をさせていただきます。事業発表に係る質疑応答の後にフリーの質疑応答とさせていただきますので、よろしくお願いたします。

なお、ご質問の際は、挙手の上、所属名をお願いいたします。発言の際はマイクのスイッチをお願いいたします。

終了は14時30分を予定しておりますので、ご協力をお願い申し上げます。

それでは、市長、よろしくお願いいたします。

【市長】 では、11月定例記者会見です。よろしくお願いいたします。

まず最初に、長期出張をさせていただきました。アメリカからカナダ、フランスに回り敦賀市の宣伝等をしてまいりました。

アメリカではニューヨークの総領事館で、カナダではカナダ大使館で、ユダヤの方たちとレセプション、また在カナダや在アメリカのイスラエル大使等々ともお会いできて話をすることができました。3年前と比べますと敦賀の認知度が高まっていて、すごく友好的な関係を持って、話をさせていただき、つながりが強くなったなと思っています。

フランスにつきましては、北出さんの人道の港の関係の講演がありました。北前船寄港地フォーラムにも参加しまして、敦賀市は、職人さんを連れていっておぼろ昆布の加工技術を広報してきたところですよ。食べていただいて、小袋で持って帰られたりすごく受け入れられたなと感じました。どうやってそれらを商業ベースに乗せていくかということが今後の課題になろうかと思えます。

それから、本日、市政功労者6名の方の表彰をさせていただきました。また、2023年度の広告付年賀はがきの販売開始の記念セレモニーをさせていただきました。去年は5万枚でしたが今年は7万枚ということです。去年は買えなかったという人がいましたけれども、今年は皆さんに行き届けばと思っております。新幹線開業に向けていろんなことを知っていただいたり敦賀に興味を持っていただいて、一度行ってみようかなという気持ちを広げていけたらなと思っています。

最後に、今日の発表項目にもございますが、脱炭素先行地域の選定につきまして本日付で選定の通知が来ましたので、よかったと思っています。脱炭素、100地区選ばれると聞いていますので、その中で敦賀を選んでいただきまして、意識の高い企業さんたちの企業誘致につなげていったりとか、また、ゼロカーボンの生活につなげていきたいと思えます。

【秘書広報課長補佐】 続きまして、事業発表をお願いします。

【市長】 事業発表項目については4項目ございます。よろしくお願いいたします。

まず最初に、脱炭素先行地域の選定についてでございます。

本市は、令和3年7月1日にゼロカーボンシティ宣言を行い、原子力発電だけでなく再生可能エネルギーや水素エネルギーといった多様なCO<sub>2</sub>フリーエネルギーの利活用を進めてきました。こうしたこれまでの本市のゼロカーボンシティに向けた取り組みや、令和

3年6月21日に連携協定を締結しました北陸電力株式会社と共同提案した北陸新幹線敦賀開業を契機とした脱炭素化へのパラダイムシフト——別紙でお手元にあるかと思いますが——が国に評価され、このたび脱炭素先行地域に選定されました。

3・11以降、原子力発電か再エネかといった選択を迫るような意見も少なくない中、本市をはじめ立地地域では、原子力発電を重要な脱炭素電源と位置づけつつ、再エネや水素等の新エネルギーと組み合わせたベストミックスがあるべき我が国のエネルギー政策の在り方であると主張してまいりました。今回の選定は、こうした我々の主張や取り組みを国が認めたということでありますので、全原協の会長として、また国、地方を通じたエネルギー政策環境に一石を投じるものとして大変意義深いものであると感じています。

2つ目でございますけれども、人道の港敦賀ムゼウム2周年記念イベント及び企画展の開催についてです。

11月3日に人道の港敦賀ムゼウムがリニューアルオープン2周年を迎えることから、各種イベントを開催いたします。また、ドイツより、ポーランド美術技術博物館「マンガ」と連携した企画展を開催いたします。あわせて、既にご案内しておおり、UNHCRご臨席の下、難民を支える自治体ネットワークに賛同し、署名する式典を執り行う予定になっております。皆様のご来館をお待ちしております。

3番目ですけれども、「つるが環境フェア2022～見つけてみよう！つるがの自然資源（おたから）～」の開催についてです。

11月5日土曜日に、きらめきみなと館におきまして「つるが環境フェア2022～見つけてみよう！つるがの自然資源（おたから）～」が開催されます。このイベントは、自然や環境に関連した様々なプログラムを通して、ご来場いただいた方々に、日常における身近な自然や環境への配慮について考えていただくきっかけを提供することを目的に開催いたします。

今年度のフェアの特別展示では、ラムサール条約登録湿地となって10周年となる中池見湿地や海洋ごみの問題を取り扱う予定となっております。また、特別展示以外にも、体験型のワークショップや企業・団体の出展など、子どもから大人までが一日中楽しみながら環境に触れ合える充実した内容となっております。多くの市民の皆様のご来場をお待ちしております。

最後の項目ですけれども、令和4年度除雪排雪計画についてでございます。

11月15日から翌年3月31日を除雪期間とし、降雪時における交通を確保し市民生活の安定を図るため、敦賀市除雪排雪計画に基づき実施します。

除雪作業は、敦賀市土木協会、敦賀市管工事組合、造園組合、その他協力事業者に委託し実施します。車道除雪は、通常の場合、積雪深が10センチに達した場合に出動し、深夜から早朝にかけて実施します。通勤通学の時間帯に間に合うよう実施いたしますが、大雪や明け方の降雪によっては作業が遅れる場合もあります。なお、歩道除雪は、積雪深が20センチに達した時点で取りかかります。

排雪場所は、和久野橋下流及び敦賀市総合運動公園第2駐車場の2か所を指定していますが、緊急時のために昭和町1丁目及び松原運動場も併せて指定しています。

また、今年から、県が管理しますみち情報ネットふくいに幹線道路9路線の除雪作業、走行規制情報を掲載します。市民の方々が外出する際の道路除雪状況の把握等に役立てて

いただきたいと考えております。

発表項目は以上4項目です。よろしく申し上げます。

【秘書広報課長補佐】 それでは、ただいま発表いたしました項目につきまして質問を受け付けたいと思います。最初に、幹事社さんのほうからお願いいたします。

【記者】 2点お伺いします。1点目、脱炭素先行地域の選定に関することですが、今回改めて選定されたということで、どういった思いで取り組んでいきたいとか、敦賀市の将来像、敦賀市の特色などをご紹介をいただければと思います。

【市長】 今回の選定というのは、北陸3県で初めてのものと聞いています。また、原子力発電所立地でも初の選定と聞いておりますので、3・11以降、原子力発電か再エネといった議論ではなくて、原子力発電も再エネもという私たちの方針ということが認めていただけたと思っていますので、原子力もやりながら再エネを使ったり水素を使ったり、そういう脱炭素に向けて動いていけると、国がそれを認めてくれたということで非常に心強く思っていますので、進めていきたいと。また、企業誘致等に関しましては、CO<sub>2</sub>フリーの電源を使いたいという企業もあると思いますので、そういう中で敦賀市の魅力を発信しながら誘致できたらと思っています。

それから、評価された点という形になるとは思いますけれども、敦賀市につきましては、脱炭素先行地域評価委員会の講評によりますと、脱炭素化を契機とし原子力発電に最適化された産業構造を複軸化しようとする点、それから2つ目が原子力と再エネを両立させるモデルを全国に示そうとする点、3つ目が北陸電力や福井銀行といった地域のステークホルダーと連携体制を整えていることの3つの評価をいただいていると聞いております。

【記者】 分かりました。ありがとうございます。

もう1点ですが、最後に発表いただいた除雪排雪計画についてですが、気象庁から3か月予報で、今年の冬は厳冬だということで日本海側の大量の積雪を予想されていますけれども、何かこれまでと除雪計画で強化している部分とか、こういったところを重点的にやっているという部分がありましたら教えてください。

【市長】 今年の予想としますと気温が低いということと降雨量は多いということですので、結果として雪がたくさん降るのかなということをお心配されるわけなんですけれども、その中で一つは、先ほど言いましたみち情報ネットふくい、幹線道路だけですが、9路線表示するようになります。朝方4時頃、除雪が完了したはずなのに7時頃になったらしっかり降って積もっているみたいなのがありますので、ちゃんとやっているんだよということを分かっていたきながら混乱を解消できるよう画像で見れるというのは一つの対策になると思っています。それから委託業者につきましては、昨年74社から73社に減ったんですけれども、4台の補助もしながらですが、作業台数につきましては176台から177台に増えていますので、高齢化して作業者が減る中、対応していると感じているところです。

【建設部長】 市長が申し上げたとおり、体制としてはそんなに落ちているわけではないということです。あと新たに除雪状況が見れるということで、3か月予報では、気温としては平年並みか低い、降水量、降雪量としては平年並みか多いということでございますので、気を引き締めましてやっていきたいと思っていますのでございます。

以上でございます。

【記者】 分かりました。ありがとうございます。

【秘書広報課長補佐】 それでは、各社にお伺いいたします。発表項目につきまして質問がございましたら挙手のほうをお願いいたします。

【記者】 脱炭素化先行地域の件ですけれども、具体的な取り組みとして、敦賀市ですと卒FIT太陽光発電の活用でしたり、あと、先月ドローンの実装が始まりましたけれども、そういったスマート物流という取り組みをしています。今回、先行地域ということで、これらが全国的なモデルになれるようなというのも選考された理由の一つでもあるのかなと思うんですけれども、これらの具体的な取り組みを今後どのように継続的に取り組んでいきたいと考えていますでしょうか。

【市長】 ありがとうございます。

その話は部長のほうから答えると思いますが、もう一つ、ごみ発電が入っているのが非常にうれしくて、新しい焼却炉はプラスチックごみも燃やすんです。ペットボトルみたいに再生できるものじゃなくて、どうしても捨ててしまわなくてはいけないようなものも燃やすんです。そういうプラスチックを燃やすのにどうなのかという議論もあるんですが、それがしっかりとCO<sub>2</sub>フリーのほうに組み込まれて理解をいただいているというのは非常にうれしいなと思っています。

あと、今後の取り組みについては部長のほうからお答えします。

【企画政策部長】 今後どうというような話がございましたけれども、お配りの資料の1の②のところに書いてある部分がございます。北陸電力や福井銀行と「敦賀市脱炭素マネジメントチーム」を設立しまして、エネルギーマネジメントや再エネ設備に対する支援措置などを検討していくという、このようなことも盛り込んでおりますので、そういうところでまた今後についても検討しながら進めていきたいと考えております。

以上です。

【市長】 あと、ドローンについては「新スマート物流推進に向けた自治体広域連携協定」もありますので、この中で愛発モデルというのを目指していますから、そういうところを横展開していけたらいいなと思っています。できれば県内の自治体から、周りから広まってくると、1つの自治体でやっているよりもコストが下がっていきますので、そういうことを進めながらやっていけたらなと思っています。

【秘書広報課長補佐】 ほかにいかがでしょうか。

[なし]

【秘書広報課長補佐】 それでは、次第の3番目、フリーの質疑応答へと移りたいと思います。これも幹事社さんのほうからお願いいたします。

【記者】 先日コメントもいただきましたけれども、原子力規制委員会の日本原子力発電の敦賀原発2号機の地質データの書換え問題に関しまして審査の再開が決定されました。それについて、改めて受け止めと、日本原電に求めたいことなどがあればお話しください。

【市長】 再開するというので、まずはよかったですと思います。データの審査資料作成に係る業務プロセスが構築されたということですので、そういう意味ではレベルアップしたんだろうと思っています。

ただ、最初にもめたときのイメージを思い起こしますと、審査する側に合わせてこっちが書類を作るんじゃなくて、審査する側とされる側が対立して、情報交換していないよう

なイメージがありましたので、そういうところを、相手が求めているものは何なのかというのをしっかりと聞き出してこちらが答える、そういうような関係をつくらなくてはいけないんだろうと思います。それにつきましては、規制庁の委員長も替わりました。お互いにやり取りしましょうというイメージの発信がありますので、うまく進んでいくんじゃないかなと期待しています。

【記者】 ありがとうございます。

【秘書広報課長補佐】 それでは、各社にお伺いいたします。ご質問がございましたら挙手のほうをお願いいたします。

【記者】 12月定例会前の最後の会見ということで、聞かせてください。

来春の市長選なんですけれども、たしか前回は12月定例会の冒頭に表明されていたと思うんですけれども、今回、その判断の時期というのはいつ頃になりそうでしょうか。

【市長】 12月議会のどこかということになろうかと思います。

【記者】 分かりました。ありがとうございます。

【秘書広報課長補佐】 ほかによろしいでしょうか。

[なし]

【秘書広報課長補佐】 それでは、これをもちまして市長定例記者会見を終了いたします。ありがとうございました。

午後 1時 46分 終了